

国際会議から

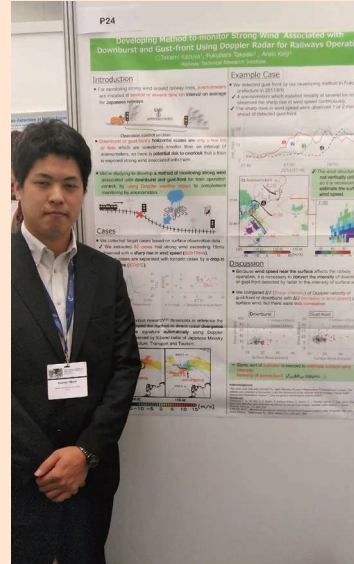
第10回シビアストームに関するヨーロッパでの会議 (ECSS2019)

本国際会議は竜巻などの突風やスーパーセルなどシビアストーム全般に関する会議であり、観測手法や雲物理のメカニズム、気象レーダー、気象モデルによるシミュレーションなどの分野に関するセッションが行われます。本会議はアメリカとヨーロッパでの隔年で行われており、今年度はポーランドの古都クラクフで開催されました。クラクフはかつてポーランド王国の首都であった歴史ある都市で、ポーランドの京都とも言われています。

本会議は世界遺産にも指定されているクラクフの旧市街の中心部に位置する会場での開催となりました。会議は一会場ですべてのセッションが行われ、どの発表においても活発な議論が交わされていました。筆者は気象レーダー観測に関するセッションにおいて、ダウンバーストなどが鉄道沿線にもたらす強風を、気象レーダーを用いて監視する手法について、ポスター発表を行いました。聴講者とは「鉄道事業者へのデータの受け渡し方法」や「解析の精度」などについて、自国の鉄道や気象状況などの話を交えながら議論を行いました。



会議会場前の風景



高見和弥  
防災技術研究部  
気象防災研究室 研究員

正式名称：10th European Conference on Severe Storm  
 開催国：ポーランド(クラクフ)  
 期間：2019年11月4日～8日  
 主催：European Severe Storm Laboratory  
 開催頻度：隔年  
 次回開催予定：2021年11月8日～12日、ルーマニア(ブカレスト)  
 ホームページURL：<https://www.essl.org/cms/european-conferences-on-severe-storms/ecss-2019/>